



みどりのきずな

平成22年1月1日発行 第10号

【緑区地域福祉計画 基本理念】

『区民一人一人が手を結びあい、
心あたたまる地域の活性化をめざし、
住みよいまちを創造していく』

編集：緑区地域福祉計画推進協議会広報部会

発行：緑区地域福祉計画推進協議会事務局

(緑保健福祉センター 保健福祉サービス課内)

千葉市緑区鎌取町226番地1

Tel 043-292-8142 FAX 043-292-8276

「小さいことを重ねる」とが・・・

委員長 岡本博幸

あけましておめでとうございます。「寅年」の一年が始まりました。「寅（いん）は寅（えん）」で、万物が演然として始めて地上に生ずること。」の意です。今、真つすぐ伸びる動きを象徴している言葉です。緑区地域福祉計画推進協議会一同は、今年一年間地域の皆さんと手を携えて推進していきたくと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

「小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道だと感じている」

この言葉は、マリナーズのイチロー選手が九年連続二〇〇安打を記録したときの朝日新聞の記事（二〇〇九・九・十五）です。そのほかに「打撃には、これという最後の形はない。これで良いという形はない。でも今の自分の形が最高だという形をもっている。この矛盾した考え方が共有していることが

僕の大きな助けになっている」

この記事を読んだときの感動は忘れることができません。九年間二〇〇安打達成の陰には、私たちが想像出来ない努力と精進の積み重ねがあったことと思います。彼の言葉は短く真理を吐露してくれ、ときには「哲学的・求道的」な言葉で私たちに人間としての生き方を示唆してくれます。

この言葉の一部を、福祉活動に置き換えることが出来るのではないかと思っております。「小さいことを重ねることが」はそのままに、「打撃には、これという最後の形はない」は、「福祉には、これという最後の形はない」と置き換えてみると福祉活動の原点としてそのまま当てはまります。さらに、「時々くずれる人間性を磨いていきたい」というイチローの言葉を私は、鏡として地域福祉活動を推進していききたいと思っております。

今年は、現在の地域福祉活動の在り方についての「見直し」に着手しました。平成二十三年以降の緑区地域福祉計画はどうある

べきか、現行の「地域福祉計画」を土台に「見直し検討委員会」を設置し、月一回の割合で内容の検討に入りました。それを各月の「緑区地域福祉計画推進協議会全体会」においてさらに検討を重ねていくところです。

「見直し」とは、地域住民の幸せと生きがいの基本とし、住民たちが「こんなことしてほしい（公助・共助）」「こんなことを助けあっていきたい（共助）」「こんなことを自分はどうしたい（自助）」という声を今一度聞き直し、それを「計画」に盛り込んで行く作業です。どうぞ皆様の声をお聞かせ下さい。「緑区地域福祉計画」を皆さんと共に作り上げていきたいと思っております。

「緑区地域福祉計画」の見直しについてのご意見は、

保健福祉サービス課

Tel 292-8142

社会福祉協議会

Tel 292-8185

まで、お電話下さい。

お待ちしております。

誉田地区

障害者施設 エルピザの里納涼祭にボランティア活動参加

八月八日（土）真夏の日、ボランティア委員会と合同で総勢二〇人で参加。最初に事務局より活動内容が説明。ボランティアTシャツが配られ着用、ガンバローと一致団結、十四屋台にそれぞれ一名ずつ配置、ゲームコーナーはいつさい任せ、ヨーヨー釣り、景品つり、水鉄砲と三コーナーを六人で楽しく活動した。

祭りは太鼓から始まり踊りなど、利用者と親とのわき合い合いのふれ合いに感動しました。

参加した皆さん異口同音に楽しい中でいい経験と、毎日利用者とならずさわっている施設長はじめ先生方の変さが身に染みて感じました。

後日、施設から参加したメンバーに手作りのメガネ立てのお礼があり、感動しました。

障害者福祉委員会より

児童と年寄りのクリスマス会

少子高齢化、核家族と、いろいろな要素が重なり合い、児童にはお爺ちゃんやお婆ちゃんと、年よりは孫と、一つの屋根の下で生活している家族は少なくなり、お互いの心の癒しをと計画し、4年前からクリスマス会を実施しています。

爺ちゃん、婆ちゃんと児童との触れ合いを主とし、児童には年寄りの生活や昔話を、児童は今、学校の事や友達のことを話したり聞いたり、互いの社会勉強と交流を主としています。

内容として、クリスマスの会場作りは、飾り付けから遊びの工夫まで、長寿会が前日から準備し、集まった子ども達には、サンタクロースからのプレゼントを配り、その後、子ども達と年寄りの触れ合いといったわりと優しさの感性を深める為に、自由時間を取り、話しに花を咲かせ、その後に、ビンゴゲームや輪投げ、ジャンケンゲームを楽しみ、和気あいあい一時をすごします。

このようにして、互いに触れ合い、将来を担ってくれるであろう子ども達と絡み合い、大いに笑い、この時こそ精一杯楽しんでいきます。また、この交流で年寄り生きる喜びと活力を新たにしています。この集いは、児童の父兄の参加も大歓迎であり、ひいては3世代の交流にも大いに役立っています。



鎌取町長寿会 寄稿

椎名地区

地域の子どもは

地域のみんなで育てます

椎名小「しいのみ祭」での

「ふれあい」と「絆」

十一月十四日（土）の「祭」には、地域のボランティアも参加し、低学年の学童には、「あやとり」、「お手玉」、「めんこ」、「ピー玉」などの昔遊びを一緒にやり、中学年生には、「竹馬」、「凧」、「小鳥笛」などを一緒に作って遊びました。

また、「わらじ」、「しめ縄」などの道具作りを一緒に行い楽しく過ごしました。

竹馬乗り



お元気ですか？

お手伝いしましょうか

千葉市社会福祉協議会椎名地区部会と民生委員と一緒に、歳末の十二月二十三日（水・祝）に、八十才以上のひとり住まいの高齢者のお宅を訪問して、近況やお困りのことなどを聞き、よもやま話しの相手をしました。

おゆみ野地区

「おゆみ野まちづくり協議会

開催！」

九月十二日（土）鎌取コミュニティセンターのホールで、おゆみ野まちづくり協議会による自転車安全通行勉強会が開催された。

企画をしたのは、おゆみ野自転車共生会議のメンバー達。彼らは、おゆみ野を自転車という切り口から住みやすい街にするために活動している有志たちだ。

勉強会に集まったのは、南警察署の方、千葉市の職員、おゆみ野の住民の約八〇名。始めに遊歩道での自転車通行、次に車道における通行をテーマに、住民からは自転車利用の日常について、警察には主に法律の面から安全な自転車の通行、千葉市からは道路行政の面や市民協働の視点から、発言がなされた。

警察や行政と住民が一堂に会した場合、立場上から対立する場面が考えられがちだが、そんな雰

囲気も全くなく活発な発言が飛び交ったのは、おゆみ野自転車共生会議の「すべての人との共生」という基本姿勢を表しているといえる。

この日、南警察署からは、自転車安全教育について安全教室などで遊歩道の安全通行を盛り込んでいきたいとされ、千葉市からは道路標示などを住民と協働して考えていくことは可能だという考えが示された。

住民側もルールを周知し協力して今後のまちづくりに生かしていくことになる。住民の手で行われるまちづくりも行政の変化とともに共生していくことになるだろう。

おゆみ野地区の予定

2月7日（日）

「こころの健康教室」

午後1時から午後4時まで

鎌取コミュニティセンター

2月14日（日）

第2回四季の道駅伝大会

「おゆみ野地区の文化祭、

第十四回「みこん祭り」

十一月にしては汗ばむ陽気の中、全国的に猛威を振るったインフルエンザの影響で参加者減少が危ぶまれましたが、無事に開催されました。

泉谷・有吉中の生徒によるファンファーレを合図に始まるハーマニーステージは、演奏や演舞などが披露され、おゆみ野住民の隠れた才能の宝庫。子どもたちもダンスなどで元気に参加しました。ギャラリイでは、写真や書の展示や活動パネル発表など定着してきた感がありますが、益々の参加を呼び掛けています。

一方、屋外ではボーイ（ガール）スカウトの子どもたちがゲームコーナーで活躍し、泉谷中特別支援学級の生徒による野菜と手作りの店も大繁盛。みんないい顔していましたよ。

今年は、交通安全適性診断車「ちとらくん」が登場。自転車シミュレータを搭載し、老若男女たくさんの方に体験していただきました。

土気地区

高齢者福祉推進事業助成について (財団法人 みずほ教育福祉財団)

このたび、大椎台助け合いの会は、財団法人みずほ教育福祉財団より、「老後を豊かにするボランティア活動資金」への助成金として八万円の助成を受け、平成二十一年九月十七日(木)午前九時より、大椎第一公園にて、贈呈式が行われ、みずほ教育福祉財団、藤井様より助成金を受領いたしました。

大椎台の皆様が老後を、楽しく元気で安心して生活されるように、ゴルフの用具一式を購入し、ランドゴルフを楽しみながら使っているグループに使用して頂いており、週二回皆様が元気に楽しくランドゴルフをされています。



土気シビックウインドオーケストラの演奏風景



ふれあい福祉フェスティバル
障害者と健常者が一同に集い、地域の福祉や環境について考え、太鼓や音楽の楽しさを分かち合う『第十五回ふれあい福祉フェスティバル(社協、実行委員会共催)』が十月十七日(土)、十八日(日)の両日、土気駅前あすみが丘バースモールで開催されました。広場では、手作り作品の展示・販売、活動の紹介、ゲームコーナーなどが設けられ、ステージでは、太鼓、クラシックギター、吹奏楽、オーケストラなどの演奏と合唱があり、約二千名の来場者を楽しませました。

盛りたくさんのプログラム 『イキイキあんしんフェア』

昨年より始まった千葉市あんしんケアセンター千寿苑主催の「イキイキあんしんフェア」が、今年も十月二十六日(月)から三十日(金)迄の五日間、土気駅前のバースモール内で開催されました。午前中は日替わりで『ちば消防署員による救急救命やAEDの講習』『消費生活センターの悪質商法についての出前講座』、その他認知症について、栄養について、フット&ハンドケア等と盛りたくさんの講演がありました。

また、同時進行で終日『健康相談会』も催され、看護師などによる血圧測定、体重・身体測定、体脂肪率や筋肉量ほか、興味深いデータを知ることができる。中でも体内年齢と言う物があり、若若く計器が表示してくれる(笑)ようで自信が付いた。これを基に健康な生活を送るためのアドバイスをしてくれる。

以前紹介された「見守りネットワーク土気」のメンバーや地区の民生委員も協力し、通りかかる方

AEDの講習会



達にお声を掛けながらコミュニケーションを図るのに余念がなかった。
なお、健康相談会(無料)は、千葉市あんしんケアセンター千寿苑で、毎月第二水曜日の午前十時から午後三時に定期的に行っているとの事で、健康維持に役立ててみてはいかがだろう。

◆◆◆編集後記◆◆◆

見直し検討委員会が発足し、各月で推進委員の方々に会っています。

緑区の中でも小さな地域の活動でしたが、土気から椎名まで年代を超えた友人が増え、最近こんな関わりも良いものだと思い始めました。

皆さまも、傍聴できますよ。(T)